

## 労働安全衛生の向上を願って

金原清之氏

「データが操作されている気がする」、「背景に監督官の定数削減もあるのでは」——。2015年11月18日に開かれた、アフター5は、元労基監督官で、労働安全・衛生コンサルタントの金原清之さんが講師。奈良・大和郡山から駆けつけ、「労働安全衛生の向上を願って」と題して講演した。元担当者ならではの、本音の問題提起に、意見交換は白熱。当日は冷たい雨で、参加者も20人不足だったが、冷房が必要になるほどだった



労災での死者数は、1961年6712人をピークに、減少してきたものの、発生件数は、6、7年前から頭打ち。より効果を上げるために、法的側面、制度的側面から問題点を指摘した。専門の化学物質対策では、さらに突っ込んで、2014年の業務上疾病統計の全疾病5445件のうち、化学物質による疾病が207件しかないことを取り上げ、「真の姿か、きちんと把握する必要がある」とデータの信憑性に首を傾げた。

2014年秋に大阪で騒ぎになった胆管癌事件にも触れ、労災防止対策として、スキル、スピード、スピリット、セイフティに、サイエンスを加えた、新しい「5エス」運動を紹介。中でも、サイエンスが重要で、社会、産業、認知などの心理学の導入を提案。質疑では役所のデータの信頼性、監督官の数、特に化学だけでなく、各専門分野での理系監督官不足など問題山積の現状が明らかになった。(植木隆司)